

令和7年度鴨川市立国保病院経営強化プラン実施状況評価表

【総括】

病棟は、地域包括ケア病床 60 床、医療療養病床 10 床、合計 70 床で運営した。

地域包括ケア病床は、10 対 1 の看護師配置を継続し、看護体制の充実を図った。

入院患者数は、令和 6 年度との比較において 855 人、目標値との比較において 7,462 人、それぞれ下回った。これは、看護師不足への対応として病床運用を制限したこと及び地域包括ケア病床のみの稼働としたことが主な要因である。

外来患者数は、整形外科、泌尿器科等が減少し、内科、眼科、歯科等が増加し、令和 6 年度との比較において 4,216 人、目標値との比較において 5,449 人、それぞれ上回った。

訪問診療は、令和 6 年度との比較において 1,594 人、目標値との比較において 2,093 人、それぞれ上回り、訪問看護は、令和 6 年度との比較において 50 人、目標値との比較において 571 人、それぞれ下回った。

これら訪問診療、訪問看護等の在宅部門について、公共交通機関が乏しく、高齢化の著しい当地域において不可欠な取組であり、地域医療を担う事業として引き続き推進していく必要がある。

役割・機能の最適化と連携の強化については、地域包括ケア病床の看護体制の充実を継続することにより、地域包括ケアシステムの機能の充実を図った。また、高度急性期病院、在宅等からの患者及び救急患者の受入を行った。

医師・看護師等の確保と働き方改革について、医師の確保に努めるとともに、千葉大学、総合病院国保旭中央病院等の研修医の受入、東京大学、千葉大学、自治医科大学、亀田医療大学等の学生の実習の受入を行い、将来的な医療人材確保を見据えた教育・研修機能の強化に努めた。また、民間事業者のウェブサイトを利用して看護師及び薬剤師の募集を行い採用につなげた。

経営形態の見直しについては、現状の経営形態の中で経営改善に努めた。

新興感染症の感染拡大時等に備えた平時からの取組については、新型コロナ患者の入院を受け入れるとともに、引き続き発熱外来を開設した。また、感染症法に基づく千葉県との医療措置協定を継続するとともに、千葉県新興感染症対応力強化事業補助金を受けて検査装置を増設した。

施設・設備の整備について、必要性を考慮しながら、医療機器の更新等を行った。

経営の効率化について、収益の確保と費用の節減のための各種取組を行った。

事業収益は、令和 6 年度との比較において 2,632,959 円減少した。これは、入院収益が減少し外来収益が増加したことなどにより医業収益が 9,352,470 円増加した一方で、他会計補助金が減少したことなどにより医業外収益が 11,985,429 円減少したことによるものである。

事業費用は、令和 6 年度との比較において 3,792,581 円増加した。これは、人事院勧告及び千葉県人事委員会勧告に準じた常勤職員の給与改定、会計年度任用職員の報酬改定などにより給与費が 16,584,948 円増加したことなどにより医業費用が 4,210,291 円増加したことなどによるものである。

収益の減少、費用の増加等のため経営指標に係る目標値に到達しないものが生じた。

目標値に直接的な影響が及ぶものではないが、医療の質及び組織運営の継続的改善並びに地域住民及び関係機関からの信頼性向上を目的として公益財団法人日本医療機能評価機構が実施する病院機能評価を受審し、認定を受けた。

【数値目標に対する点検・評価】

(令和7年度)

「鴨川市立国保病院経営強化プラン」(期間：令和 6 年度～令和 9 年度の 4 年間)に基づき実施した具体的な取組は、以下のとおりである。

1 医療機能や医療の質、連携の強化等に関する数値目標

(1) 医療機能に係るもの

項目	目標値	実績値	比較	自己評価
病床利用率 (%)	96.0	66.5	▲29.5	看護師不足への対応として病床運用を制限したため目標値を下回ったが、安全な医療提供体制の維持を優先した。

入院延患者数（人）	24,455	16,993	▲7,462	看護師不足への対応として病床運用を制限したため目標値を下回ったが、安全な医療提供体制の維持を優先した。
外来延患者数（人）	39,170	44,619	5,449	【医科】新規患者の受入に努めるとともに、引き続き発熱外来を開設した。 【歯科】歯科衛生士を増員し、口腔衛生に係る患者を増加させた。
入院患者1人1日当たり収益（円）	35,219	36,417	1,198	適正に診療報酬の算定を行った。
医科外来1人1日当たり収益（円）	8,929	9,928	999	適正に診療報酬の算定を行った。
歯科外来1人1日当たり収益（円）	7,787	7,159	▲628	適正に診療報酬の算定を行った。
救急応需率（％）	66.0	53.0	▲13.0	病床制限下においても可能な限り救急要請に対応した。
救急車受入件数（件）	530	489	▲41	高度急性期病院等との連携を図りながら救急患者を受け入れた。
休日・夜間・時間外受診者数（人）	155	141	▲14	夜間・休日における地域住民の受診需要に対応した。
訪問診療件数（件）	3,130	5,223	2,093	【医科】積極的に訪問診療を行った。 【歯科】歯科衛生士を増員し、積極的に訪問診療を行った。
訪問看護件数（件）	7,818	7,247	▲571	看護師の減のため目標値を下回った。
リハビリ件数（件）	9,500	9,676	176	言語聴覚士を増員するとともに、リハビリ機能の充実を図った。

（２） 医療の質に係るもの

項目	目標値	実績値	比較	自己評価
在宅復帰率（％）	83.0	79.0	▲4.0	多職種が連携し、リハビリや在宅復帰への環境整備等を実施した。
患者満足度（％）	70.0	64.9	▲5.1	患者アンケートを実施し、その結果をもとに病院運営の改善に努めた。

（３） 連携の強化等に係るもの

項目	目標値	実績値	比較	自己評価
紹介患者受入数（人）	150	163	13	地域の医療機関との連携強化、役割分担を図り、紹介患者の受入に努めた。
紹介率（％）	10.0	20.1	10.1	地域の医療機関との連携強化、役割分担を図った。
逆紹介率（％）	15.0	29.9	14.9	地域の医療機関との連携強化、役割分担を図った。

（４） その他必要な数値目標

項目	目標値	実績値	比較	自己評価
地域医療研修の受入件数（人）	15	79	64	医学部学生等の実習の受入を行った。
医療相談件数（件）	220	224	4	地域の医療機関・施設との連携強化に努めた。

2 経営指標に係る数値目標

(1) 収支改善に係るもの

項目	目標値	実績値	比較	自己評価
経常収支比率 (%)	100.1	91.4	▲8.7	収益の確保、費用の節減に努めたが、収益の減少及び費用の増加のため目標値を下回った。
医業収支比率 (%)	95.3	85.2	▲10.1	医業収益の増加が医業費用の増加を上回ったため前年度の数値を上回ったが、目標値を下回った。
修正医業収支比率 (%)	95.3	85.2	▲10.1	医業収益の増加が医業費用の増加を上回ったため前年度の数値を上回ったが、目標値を下回った。
資金不足比率 (%)	0.0	0.0	0.0	資金不足は生じていない。
累積欠損金比率 (%)	0.0	17.9	▲17.9	経常損失を計上し、前年度繰越欠損金と合計した結果、累積欠損金が増加した。

(2) 収入確保に係るもの

項目	目標値	実績値	比較	自己評価
延入院患者数 (人)	24,455	16,993	▲7,462	看護師不足への対応として病床運用を制限したため目標値を下回った。
延医科外来患者数 (人)	26,130	26,041	▲89	新規患者の受入に努めるとともに、引き続き発熱外来を開設した。
延歯科外来患者数 (人)	13,040	18,578	5,538	歯科衛生士を増員し、口腔衛生に係る患者を増加させた。
入院患者1人1日当たり収益 (円)	35,219	36,417	1,198	適正に診療報酬の算定を行った。
医科外来1人1日当たり収益 (円)	8,929	9,928	999	適正に診療報酬の算定を行った。
歯科外来1人1日当たり収益 (円)	7,787	7,159	▲628	適正に診療報酬の算定を行った。
1日当たり入院患者数 (人)	67	46.6	▲20.4	看護師不足への対応として病床運用を制限したため目標値を下回った。
1日当たり医科外来患者数 (人)	125	88.9	▲36.1	新規患者の受入に努めるとともに、引き続き発熱外来を開設した。
病床利用率 (%)	96.0	66.5	▲29.5	看護師不足への対応として病床運用を制限したため目標値を下回った。

(3) 経費削減に係るもの

項目	目標値	実績値	比較	自己評価
材料費対医業収益比率 (%)	5.6	8.6	3.0	材料費が減少し、医業収益が増加したため比率が減少したが、目標値を上回った。
薬品費対医業収益比率 (%)	1.7	2.6	0.9	薬品費が減少し、医業収益が増加したため比率が減少したが、目標値を上回った。
委託料対医業収益比率 (%)	9.1	10.0	0.9	委託料が減少し、医業収益が増加したため比率が減少したが、目標値を上回った。
職員給与費対医業収益比率 (%)	69.0	78.3	9.3	医業収益の増加を職員給与費の増加が上回ったため比率が増加するとともに目標値を上回った。

後発医薬品の使用割合 (%)	41.0	41.4	0.4	後発医薬品の使用を推進し、目標値を上回った。
----------------	------	------	-----	------------------------

(4) 経営の安定性に係るもの

項目	目標値	実績値	比較	自己評価
医師数 (人)	7	6	▲1	病院運営に必要な人員の確保に努めた。
看護師数 (人)	48	36	▲12	病院運営に必要な人員の確保に努めた。
その他医療従事者 (人)	34	28	▲6	病院運営に必要な人員の確保に努めた。
臨床研修医受入数 (人)	14	18	4	千葉大学、総合病院国保旭中央病院等の研修医の受入を行った。
現金保有残高 (千円)	433,624	535,322	101,698	現金保有残高は減少したが、目標値を上回った。
企業債残高 (千円)	1,685,663	1,674,864	▲10,799	持続的に病院経営を行うために、適正な企業債の発行に努めた。

※医師・看護師・その他医療従事者の人数は年度末の人数。

[用語の説明]

- ・ 経常収支比率
事業に係った全ての経費と事業で得た全ての収入の割合。
 $\text{＜経常収益＞} \div \text{＜経常費用＞} \times 100 \quad (\%)$
- ・ 医業収支比率
医療の業務にかかった経費と医療の業務で得た収入の割合。
 $\text{＜医業収益＞} \div \text{＜医業費用＞} \times 100 \quad (\%)$
- ・ 修正医業収支比率
医業収益からその他医業収益のうち他会計負担金を除いた修正医業収益の医業収益に占める割合。
 $\text{＜修正医業収益＞} \div \text{＜医業費用＞} \times 100 \quad (\%)$
- ・ 累積欠損金比率
医業収益に対する累積欠損金の割合。
 $\text{＜累積欠損金＞} \div \text{＜医業収益＞} \times 100 \quad (\%)$
- ・ 病床利用率
病院の施設が有効に活用されているか判断する指標。
 $\text{＜年延入院患者数＞} \div \text{＜年延病床数＞} \times 100 \quad (\%)$
- ・ 材料費対医業収益比率
医療の業務で得た収入に占める薬品や診療材料の割合。
 $\text{＜材料費＞} \div \text{＜医業収益＞} \times 100 \quad (\%)$
- ・ 薬品費対医業収益比率
医療の業務で得た収入に占める薬品費の割合。
 $\text{＜薬品費＞} \div \text{＜医業収益＞} \times 100 \quad (\%)$
- ・ 委託料対医業収益比率
医療の業務で得た収入に占める委託料の割合。
 $\text{＜委託料＞} \div \text{＜医業収益＞} \times 100 \quad (\%)$
- ・ 職員給与費対医業収益比率
医療の業務で得た収入に占める職員給与の割合。
 $\text{＜職員給与費＞} \div \text{＜医業収益＞} \times 100 \quad (\%)$